



胸に輝く金メダル

阿部^{あべ} 捺美^{なつみ}
女川町立女川第三小学校五年（宮城県）

平成二十二年三月三十一日、私たちの女川第三小学校は閉校になります。だからこそ、今年の町内水泳記録会には特別の思いを持って臨みました。何とかして、

「第一位、女川第三小学校、阿部捺美さん。」

というコールを受けて、表彰台の一番高いところに立ち上がったのです。母が子どもの頃も兄が小学生の時も、町内水泳記録会で入賞しメダルをもらっていたので、何としても母や兄に肩を並べたいと思っていたのです。何よりも、女川第三小学校の児童として、表彰されるのは最後のチャンスだったのです。

私は水泳が大好きです。小学一年生の頃からプールで泳ぐことも、家の前の海で泳ぐことも当たり前のように経験してきました。ただ、私はスイミングスクールには通っていません。ですから、泳ぎ方は自己流です。ターンの仕方何となくしか分かりません。私が出場する女子五十メートル自由形は、五、六年のオープン種目です。他の学校のスイミングスクールに通っている人や、六年生と勝負をしなければならないのです。そう簡単に、私の望みがかなうはずはありません。

私ができることは、体育の授業時間に一生懸命練習し、少しでも

自分の課題を解決することでした。六月の半ばから、体育の時間には集中して取り組みました。一番の課題はターンです。クイックターンがスムーズにできれば、目標タイムに近づくことができました。何度も繰り返し練習し、少しずつコツをつかむことができました。その他にも、スタートの反応を早くすること、息つきやバタ足、手のかき方など一つ一つを先生方にチェックしていただきながら練習しました。最初の一ヶ月はあまり練習の成果が表れず、あせりとあきらめの気持ちでいっぱいになりました。そんな時、友達が応援してくれました。家族も励ましてくれました。いつもは口げんかをしている兄でさえ、優しくアドバイスをしてくれることもありました。そのかいもあって、何とか七月の後半になって目標タイムに近づくことができました。課題のターンもスムーズにできるようになりました。後は体調を整えて、七月二十八日の大会に臨むばかりになりました。

いよいよ大会当日、プログラムがどんどん進み、私が出場する種目の番になりました。二組のタイムレースの一組目、スタート前はいろいろなことを考えました。知らず知らずのうちに緊張していました。スタート台に乗ったしゅん間、何もかも忘れ、スターターのピストルの合図に集中しました。夢中で泳ぎました。一組目では、一位でゴールすることができました。先生から、

「四十八秒を切ったと思うよ。きっと自己ベストだよ。」

と言われ、一しゅん喜びました。でも、すぐに二組目の人がどのくらいのタイムで泳ぐか気になりました。二組目のトップの人がゴールした時、接戦だと思いました。競技は終わったので、もうどうし

ようもありません。結果が発表になるまで、ただただ両手を合わせて祈りました。とても長く感じられました。

そして、結果の発表時刻となり、

「女子五十メートル自由形、第一位、女川第三小学校 阿部捺美さん、記録四十七秒四四。」

とコールされました。最高のしゅん間でした。先生や友達が喜んでくれました。応援に来てくれた母とも、目と目で言葉を交わしました。（やったよ。一位だよ。）とこぶしを握りしめた私の合図に、母も（がんばったね。よかったね。）と笑顔で答えてくれているようにしました。表彰台に立ち、胸に輝く金メダルを握りしめながら、（あきらめずにがんばってよかった。家族や先生、友達のおかげだ。）という気持ちと、（これからも水泳を続けるぞ。）という気持ちでいっぱいになりました。